

防災だより

平成31年2月号

平成31年2月13日発行
愛知県立岡崎北高等学校
総務部編集

☆今回のテーマ 半割れ

今後30年以内に70~80%の確率で発生し、最悪の場合、死者が32万以上に達するとされている南海トラフ巨大地震。国の検討会は中央防災会議で南海トラフ地震対策の報告書案を提示した。



報告書案では大地震につながる可能性がある異常現象について、「半割れ」・「一部割れ」・「ゆっくりすべり」の3ケースに整理した。その中でも最も危険視されているのが「半割れ」で、震源域の東西のいずれかで、マグニチュード8クラスの地震を観測するケース。

「半割れ」が起きた場合、残る反対側地域でも、新たな巨大地震が誘発される可能性がある指摘されており、そのため被害が出ていない地域でも、新たな地震発生から30分以内に30cm以上の津波が予想される沿岸部の住民は、1週間ほど避難すべきとしている。

この地域で起きた、過去2回の「半割れ」では、いずれも東側で最初の地震が発生し、1854年のケースでは32時間後。1944年のケースでは2年後に、西側で同規模の地震が発生している。

一方、マグニチュード7クラスの「一部割れ」や、プレートの境界面の断層がずれ動く「ゆっくりすべり」についてのケースは、一斉避難を呼びかけることはせずに“日頃の備えの確認を”住民に促している。